

「浴室とアロワナ」

—2 稿—

2023/9/12

雨森 れに

〈人物表〉

丹羽 香純 (24) 式次商事の会社員。外面は優等生タイプ。

戸高 真一 (28) 香純の恋人で会社の先輩。昇進欲が強い。

池田 ゆみ (32) 香純の同僚

〈ログライン〉

戸高と結婚目前の香純が裏で同僚をいじめているのがバレて**全て失う**。

〈ねらい〉

恋人やペットに向ける優しさを他にも向けるべきと思わせる。

流れとアロワナをリンクさせる。

1. 水族館・野外展示コーナー（昼）

アロワナの水槽前に人だかり。

手を繋ぐ丹羽香純（24）と戸高真一（28）が立ち止まる。

香純 「アレなんだと思う？」

戸高 「知らね。こちらへんパツとしない魚ばつかじやん。次行こ、次」

戸高、香純を引っ張って順路を進む。

後ろから走ってきた飼育員が香純にぶつかる。

香純 「いたっ」

飼育員は気付かず、人だかりの中に入っていく。

下を向いて怒りの表情を浮かべる香純。

戸高 「なんだあいつ」

香純 「ちよつとびつくりしたね」

香純、顔をあげて困ったように微笑む。

戸高 「あれは客への態度じゃないっしょ」

香純 「飼育員さんは魚ファーストなんだよ。それより次行こう？」

香純、戸高の腕に甘えるように抱き着く。

腕を組んだまま歩き出す戸高と香純。

男性 「さつき魚が飛び出したんだって」

女性 「アロワナ、だっけ？ 注意書きにも書いてあったもんね」

通り過ぎる男女を見る香純。

香純 「アロワナってさ、飛び出すんだよね。うちでも飼ってるからわかるな」

戸高 「リビングのデツカイ魚？ そんなヤバイやつだったんだ」

香純 「もう。うちはちゃんと蓋してるから大丈夫なの」

戸高 「でも、そんな魚飼ってるなんてさあ。正直ひくわー」

香純、一瞬真顔になる。笑顔に戻しながら、

香純 「真一さんと結婚するときは連れて行かないよっ」

戸高 「（にやついて）俺、人も犬つばいのが好きじゃん。飼うなら犬にしようよ」

香純、嬉しそうに頷く。

2. 丹羽宅・リビング（夜）

電気の消えたりリビング。壁沿いに1メートルほどの大きな水槽があり、専用の照明が点いている。中には淡い金色のアロワナ。

パジャマ姿の香純がタッパーを持って近づく。

香純 「ルウちゃん、餌だよー」

水槽の蓋（金網）のロックに手をかける。

金具が緩んでいるのに気づき、顔を近づける。

水音。

香純 「あ、ごめんごめん」

香純、水槽の蓋を開ける。

タッパーから素手でピンクマウスを水槽に落とす。

ニヤニヤと笑いながら様子を見守る。

3. 式次商事・給湯室（朝）

2人ほどしか入れないぐらいの狭い給湯室。

香純がインスタント珈琲を淹れている。

戸高 「（後ろから耳元で）おはよ」

香純 「ひっ……なんだ真一さんかあ」

戸高 「会社では戸高先輩な。今日、社長来るって」

香純 「あ、ちようどよかったあ。これからいろいろ片付けよう
と思っただんだよね」

香純、作業台に置いてあった汚れた台ふきを手に取る。

戸高、香純の顔を覗き込んで、

戸高 「社長、お前の事、絶対気に入ってるからさあ。頼むよ」

香純 「そっか。もうすぐ人事評価だもんね。まかせて」

戸高 「じゃ、また連絡する」

戸高、立ち去る。

香純は台ふきを濡らし、絞った水を珈琲の中に入れる。

4. 式次商事・資料室（朝）

壁に「飲食禁止」の張り紙。狭い通路に池田ゆみ（

32) が正座している。

香純、ゆみにマグカップを突き付けて、

香純 「ほら、早く飲まなきや。珈琲持ち込んだのバレちゃうよ」

ゆみ 「私のじゃ……」

香純 「何言ってるの？ じゃあここで溢そうか？」

香純がマグカップを傾ける。

香純 「今日の資料室当番、ゆみさんだよ。で、今の時間、私

は買い出して外出中の」

マグカップから珈琲がこぼれそうになる。

香純 「この鍵はゆみさんが持ってるし、他に誰も来ない。ね

え、意味わかる？」

ゆみ、慌ててマグカップを両手で押さえる。

ゆみ 「飲む。飲むから……」

珈琲を飲み干す。

香純 「台ふきの絞り汁入り、おいしい？」

ゆみ、悔しそうな表情で涙を浮かべる。

香純 「弱いってそれだけで可哀想だよ」

香純、ニヤニヤと笑う。

ゆみ 「なんで。こんな酷いこと、するの？」

香純 「……うちね。アロワナ飼ってるんだけど。肉食だからネ

ズミ食べるんだあ。それ見ると癒されるんだよ」

5. 式次商事・ビル出入口（夜）

エレベーターから出てくる社長。

物陰に隠れていたゆみが、社長に声をかける。

6. 丹羽宅・風呂場（夜）

湯船に浸かる香純。

ウエディングドレスのカタログを眺めている。

7. 丹羽宅・リビング（夜）

頭にタオルを巻いたパジャマ姿の香純。

アロワナにピンクマウスの餌をやる。

後ろから母親が声をかける。

母親 「香純、ルウの金網ゆるんでるの知ってる？」

香純 「うん。土日どっちかで新しい金具買ってくるね」

母親 「土日はドレス見に行くんじゃないかなかったっけ？」

香純 「大体決まってるもん。ルウみたいな薄い金色でシユツとしたやつにするんだあ」

母親 「真一さんルウ嫌いなんですよ。そんなのやめなさいよ」

香純 「うまいこと言うし。なんならルウを連れていく段取りも

考えてあるから。大丈夫大丈夫。って……お母さん見てよ」

水槽を指差す香純。

母親 「やだ、食べ残し？ 初めてじゃない？ 具合悪いとか？

明日から旅行なのに、困るんだけど」

香純、不安そうに水槽を見つめる。

8. 式次商事・給湯室（朝）

戸高 「昨日、俺の事話せた？」

香純 「片付けしたら、一人で頑張ってるねってランチ誘ってもらってね。そこでちょっと話せた」

戸高 「お、さすが。気が利くまじめな奴、社長すきだもんなあ」

ゆみ、給湯室を覗きながら、

ゆみ 「丹羽さん、いる？ 社長が呼んでるよ」

香純、戸高、顔を見合わせて嬉しそうな表情。

9. 式次商事・会議室（朝）

険しい顔の社長。香純は机を挟んで向き合って座っている。机の上には閉じたパソコンと伏せた書類。

社長 「本来なら人事や君の上司も呼ぶところなんだけど。私が直接確認したくてね」

香純 「何かありましたか」

社長 「丹羽くんさ、池田さんに辛く当たったことはないかな」

香純 「えっと。この前飲食禁止のところで珈琲持ち込んでたんで、それは注意しました」

社長 「本当にその認識で間違いない？」

社長、パソコンを指で叩く。

社長 「セキュリティ強化で先週からカメラついてたの、知ってるかな」

10. 丹羽宅・リビング（夜）

水槽の光のみで薄暗い。テーブルの上にウエディング雑誌が数冊重ねられている。
泣いて化粧が崩れた香純が慌ただしく帰宅する。
雑誌を見つけ、乱暴に投げる。
全て投げおえ、荒い息の香純。
蓋が落ちていることに気が付く。
急いで部屋の照明を点ける。
床に動かないアロワナ。
駆け寄り、アロワナを抱きしめる。

11. 丹羽宅・風呂場（夜）

湯船に浸かる香純。
涙が出て、止まらなくなる。
声をあげて泣き始める。

12. 丹羽宅・リビング（朝）

寝ていない様子の香純が椅子に座っている。
旅行帰りの母親が慌ただしく部屋に入ってくる。
母親 「香純、戸高さんと別れたってほんとなの」
香純 「……仕事も、やめる」
母親 「ちゃんとワケを教えなさいよ。結納金も貰ってるのに、困るんだけど」
香純 「もうぜんぶ、どうでもいい」
香純、水槽に向かい、抱きしめる。
中には死んだアロワナが浮いている。

おわり